

# SC-IB News '17.02 No.12

## コミッショナー &事務局通信



TTS ゴミ学法研究 2017/01/8-9


<http://www.scout-ib.net/>

### ◆ 標準団を目指すということ その11 「隊活動の活性化！」 “楽しい・面白い じゃなくて 愉快 をめざそう！”

最近、事あるごとに、よく「魅力あるプログラム」って声高に言われています。一昨年の7月の指導者のついでやった「想定とストーリー」に参加された指導者の感想を見て見ると、「初めは『ふーん! (-\_-)』と冷やかな目でしたが、主任講師の話術と策にはまって夢中、(∩∩)ノになっている私がありました!」と書いてありました。・・・やったことはゴミひろいですよ!?

ここに「魅力あるプログラム」の鍵があると思われまふ。

今回の23WSJでは、「日本の隊だけが、まるでそこにいないかのように静かだった」と言われるほど、外国隊との文化という自己表現の違いを肌で感じたと思います。ジャンボリーも後半になって、だんだんと「あんな風にやって良いんだ」という意識が芽生え、伝染し、スカウト一人ひとりが今までとは別のステージに上って楽しめるようになって、ようやく活気ある隊になったようです。抑えすぎないのが世界の主なやり方なんだ! 自分を表現してもいいんだ! ということを感じたわけです。そこからの思い出が強烈に残っているそうです。また、20年ほど前に県連の海外派遣事業で行った、オーストラリアで感じたことと重なりました。

さて、この2つの事例に共通していることって何でしょうか。

それは「自ら面白がる」ことで「愉快になる」

ということですよ。

私たちは日本人は、いや日本の社会は、大人になるにつれて、自分を社会に適合させるために「素直な心」の上に、何層もの「世間体」「学歴」「肩書き」「責任」「他人の目」等々…という「自己表現を抑える」という仮面を着けることで、社会の中の一員になっていくというプロセスを自然と歩んでいきます。まるで軍隊の行進のように（気がついていないでしょうが）整然と。それからはみ出してしまうと、つまり「素直な心」でふるまおうものなら、「変わり者」「変人」「自己中」「発達障がい?」「いじめ」という扱いを受けることになります。ですから、仮面を外すことは恐怖になってしまうんです。着けてさえいれば、安心・安全なんですから。

それが、プログラム立案の妨げになっていくのではないのでしょうか。あ、何も全部を外せと言っているんじゃないやありません。「ちょっと外してみようかな」と仮面に指をかけるだけいいんです。そうするとともにあつた「素直な心」にそれまで以上に風が当たります。

カプ隊のさだめの最初は「カプスカウトは、すなおであります」です。当初は、この「素直」は仲間入りするために、仲間とうまくやっていくために「素直」なんだらうなと思っていました。しかし、最近になってこれが「感受性を高めるための『素直』」なんだと思うようになりました。



素直な心でいれば、感受性が深まる → 感動しやすくなる → 相手や自分を認めているそんな自分が嬉しくなる → ポジティブになる → いろんなことに反応する → なになに、どれどれ? → 「おお!!」って言葉が思わず出て来る → おもしろく感じる → 愉快!! これが「面白がる力」なのです。・・・ずいぶん無理に展開していますが(笑)

このように「面白がる力」があると、ちょっとした雑貨屋さんがディズニーランド並みに楽しくなってしまうんです。それは自分の力でものごとを能動的に味わう「主人公」としての楽しみだからです。主人公・・・あれ?どこかに出て来ましたよね! そうです「想定とストーリー」で何度も出て来た言葉です。主役だろ?が脇役だろ?が、自ら進んで能動的に動けば「主人公」なんですよ。(そうじゃない人は傍観者)

どんなに絶景を眺めても、どんなに美味しそうなケーキを見ても、何も感じなければ意味がありません。しかし、「面白がる力」があれば、横丁の路地（うわあ、昭和の表現だあ）だって、

公園のベンチの脇の草むらだって、とてもエキサイティングなものに早変わりするのです。冒頭のゴミ拾いがまさしくそれです。

この「面白がる力」を養って、それを使って活動するのが、ボーイスカウトのやり方なんです。この力を育てないで、やれ進歩課題だ、やれ技能章だ、やれイクダキャンプだ・・・とやったところで、それは「魅力あるプログラム」とはなりません。ボーイスカウトは感動教育でもあると言われています。それは「面白がる力」→ポジティブなスカウト精神を養う教育でもあるのです。

それには、まず指導者であるあなたの自分自身の「面白がる力」を意識し、自ら伸ばしてみてください。まずは、あなたの仮面の下に隠れている素直な心に風をあててください。何ごとも素直におもしろがってください。「愉快」を表情に出してください。たったそれだけで、人生まで変わっていきます。それが、あなたの指導者としての魅力に繋がっていき、魅力あるスカウティングがそこに生まれてくるのです。

2月末に、ベンチャー達がIVY(アイビー)リーグの下に「ベンチャーラリー」として雪中キャンプを実施します。

このきっかけは、10月に実施されたスカウト・フォーラムの時に、県連プログラム委員会からの「何かベンチャーとしてやりたいことはないか?」という提案に呼応したことから始まりました。参加したベンチャーたちは、地区のスカウト・フォーラムで心を温められ、更に県のフォーラムで心が熱されたために「何か自分たちでやりたい」というWantsが生まれ、それがその場の仲間達との関わりにより大きく広がり「雪中キャンプ」というNeedsが出てきたのでしょうか。これはスカウト・フォーラムがきっかけとなり、「面白がる力」に繋がっていった例です。

皆さんの団のボーイやベンチャー達に、「何をしたい?」と聞いても、ほとんど反応がないし、答えは返ってこないことが多いのではないのでしょうか? どうしてでしょう? それは、発言してもそれが実現するとは思っていない、言い換えれば指導者たちがなんだかんだと理由をつけて、実現に向けて動くことがないから、スカウト達が日頃から「スカウティングで何かをしたい」と真剣に考えることに繋がらないからなのではないでしょうか。そんな環境では「面白がる力」は育ちません。

今回の「雪中キャンプ」にあたって、原隊指導者の反応は意外と冷ややかでした。「県連がスカウトを煽って勝手にやっていることだ」とか「どして県連事業に隊指導者が出張らなくてはならないのか」とか「ウチの隊は関係ないや、だから参加させない」・・・とか。

まあ、意図が正しく伝わらなかったという理由もありますが、そこにはオトナの都合が見え隠れしていました。今まで何度も伝えてきましたが、指導者の役目は、スカウト達に「チャンス」を与えることです。チャンスを奪うことではありません。そして、スカウトがチャンスを掴めるよう、また掴んだチャンスを逃さないよう、そのチャンスが活かせる力を自ら身につけられるよう育てていくのが指導者なのです。そしてベンチャーローパーになったら、自ら求めてチャンスを掴みにいくのです。

プログラム委員会は、スカウト達の気持ちの変化をチャンスに変えるタイミングを逃さなかったのですね。

指導者の皆さん、スカウトに「面白がる力」が現れたのであれば、それに寄り添ってベクトルを一致させ、是非とも実現できるように支援して下さい。

この雪中キャンプは、県連として全面的にバツ



クアアップします。もちろんベンチャーたちの活動ですから、彼らがやらなければならないことは彼らがします。各地区グループから幹事を選出して、幹事達が企画・計画・募集し、事前訓練計画を立て、実施内容を決め、そして実施・・・を現在行っています。

団のスカウトを増やすには、ベンチャー・ローパーの活動を活性化させることです。もちろんボーイスカウトの入口に当たる、ビーバー・カブの活動を活性化させなければ、スカウトの数は増えないでしょう。しかし、「継続」をさせるためには、スカウト達に「あれがしたい」「あんなりたい」という憧れとなる目標を示すことが大切になります。ベンチャーやローパーの活動が活性化していれば、ビーバー・カブやボーイのスカウト達にそれが示せます。それだけでなく、その保護者達もその活動を見ることで自分の子ども達の将来の姿に重ねていくことができます。それが「続けさせたい」繋がり、それが団への支援にも繋がっていくのではないのでしょうか。そのような本来の意味で団を支援する育成会があれば、団の運営、隊の運営は難しくなくなり、標準団への道を歩みだせるのではないのでしょうか。

## ◆ 臨時総会終了 県連規約の改定が可決承認されました

H28.12.18 に実施された臨時県連総会において、春の年次総会から懸案となっている県連規約の改定が承認されました。

●主な改正事項は、

1 本県連盟の現状を踏まえ、現状に即した規約とするための改正

① 県連盟分担金関連（金額、徴収方法等）条文見直し

② 現条文（第58条）の不備の解消

……分担金納付時期と承認時期のズレ解消です。

具体的な改正条文は右に示します。

| 現 行  | 改 正  | 備 考   |
|--|--|---|
| <b>第9条</b><br>次の事項は、総会の承認を受けるものとする。<br>(3) 団分担金の金額及び徴収方法                       | <b>第9条</b><br>次の事項は、総会の承認を受けるものとする。<br>(3) 削除 (以下、番号繰り上げ)  | 第58条に明記   |
| <b>第58条</b><br>本連盟は、連盟を維持するために分担金を団に課することができる。ただし、その金額及び徴収方法は、総会の承認を得なければならない。 | <b>第58条</b><br>本連盟は、連盟を維持、運営するために分担金を団に課することができる。ただし、その金額は次のとおりとし、徴収方法は理事会にて定する。<br>(1) 加盟登録者1名当たり年額2,000円<br>ただし、当該会計年度の9月から3月の期間に加盟登録した者については、年額1,000円とする<br>(2) 加盟登録1個隊当たり年額3,000円<br>(3) 加盟登録1個団当たり年額20,000円 | 字句の変更<br>分担金の金額明示、徴収方法は理事会決定<br>1 名当たり +500<br>1 個隊当たり +1,000<br>1 個団当たり 新設 |

## ◆ ウッドバッジ研修所・スカウトコースの概要

1月の説明会等で、来年度からの指導者定型訓練・基礎訓練課程が改定されることをお知らせしました。今回は、具体的にどのように変わるのかについて説明いたします。

まずは、WB研修所スカウトコースですが、これは全ての部門の基盤となる「スカウティング」コースであって、ボーイ部門のコースではありません。

今までのWB研修所との大きな違いは、各部門のプログラム立案過程（プログラムプロセス）が含まれていないということです。この部分は、WB研修所スカウトコース後に実施される「課程別研修」に移されますが、たった数時間の講義があるだけです。それだけでプログラムプロセスを理解することはタイヘンです。そのためビーバーとカブについては隊長ハンドブックが新しくなり、ボーイ・ベンチャーの隊長ハンドブックに倣ってそのプログラムプロセスの頁が大幅に増えています（この3月に発行されるようです）。同時に、それを元に各地区で開催されるラウンドテーブルにおいて、担当コミッショナーと一緒にプログラムプロセスを具体的に理解していきます。

もう1つの大きな違いは、WB研修所スカウトコースは、ボーイスカウトの「基本」についての視点を変えたことです。今までは、部門のことを良く知って隊長としての持つべき知識を獲得することを重視して組み立てられていました。しかし、スカウトコースでは、指導者が身につけるべき意識と姿勢、そしてボーイスカウト活動を本来の楽しく魅力的な、かつスカウト自身が自らを成長させられる野外における活動が展開できる力を修得できることを重視した内容となりました。

言い換えれば、隊長ハンドブックやその他の書籍で知ることが出来るものは、課程別研修やラウンドテーブル、自己研修で理解して行くこととし、スカウトコースでは、3泊4日というまとまった期間、そして多くの参加者によらなければ得られないことを重視し、書籍等では知るコトが難しい指導者としての意識、対スカウトへの姿勢や関わり方、基本動作、野営やハイキング等のノウハウ、班制度の具体的な在り方などを、実際に体験にすることで身につけていきます。

今まではできる人が中心となってやってきた設営・撤営や食事もセッションとして、全ての人が体験し身につけてもらいます。そのため、各班には「黒子」として班担当が常駐し、参加指導者を全面的に支援していきます。

ボーイスカウトの基本中の基本である「ちかい」と「おきて」についても、スカウトコースや課程別研修で多少触れていますが、その内容を深く理解することは、ラウンドテーブルとなります。

このように、今までのWB研修所で行ってきたことの多くがラウンドテーブルでの学習となります。そのため、今まで地区独自で運営されてきたラウンドテーブルは、来年度から県連の定型訓練として同じ次期に同じテーマ・内容で開催することとなりました。

同じラウンドテーブルという名称ですが、内容も位置づけも新しいものとなります。開催も単独地区とは限らず複数地区が一緒になって実施する場合もあります。

これまでも**隊長の必修研修**であったラウンドテーブルですが（いつからか任意参加になってしまった・・・）、今後は、隊長・副長はラウンドテーブルに出席しないと、スカウトたちに本当のスカウティングが提供できなくなってしまいます。まもなく県連の年間事業計画が決まります。是非スケジュールを確保してください。

「本当のスカウティング」という言葉をこのところ多く発しています。これを書くとき必ず反発する指導者がいます。「じゃあ、なんだよ、俺たちがやっているスカウティングは本当じやないのかよ!」「スカウトたちは楽しんで毎回出て来るんだからいいんじゃない!」と言いたいことは良くわかります。私も昔はそうでしたから。「楽しい」を追求したスカウティングをやってみましたし、そうあるべきだと思っていました。いや、今でもそう思っています。

しかし、年と共に知恵がついてきましたので、楽しい「先」に何かあるのかを見られるように、また、より楽しい結果をだすためにはどんなプロセスを踏んで行くのがいいのかをスカウト達に考えさせるような、そして考えたらそれが実行できるような環境作りをしています。

本当のスカウティングとは、知識でも技能でも思想でもありません。キャンプをすることでもハイキングをすることでもありません。奉仕活動をするということでもありません。どのような意識を持って、どのような姿勢でコトに臨んでいくか、どのような結果を予想し推理して準備し実行していくか、良い結果をだすためにどのように仲間や地域とコミュニケーションをとっていくのか、そのために何を身につけ、どのようなベクトルを持って、何を大切に行動し



ていくのか・・・です。「そんなのあたりまえだろう!」と言われそうですが、これが正解! というものがない中で、自分で考えて、そして多様な価値観を持つ仲間と共に行動することで、未来を切りひらきいていく、そんな力をスカウト自らが育んでいく、つまり自分の成長に責任を持つ、そんなスカウトを育てることが「本当」のスカウティングなのではないでしょうか。班制度、進歩制度、野外活動、奉仕活動、制服、隊旗・班旗などは、すべてその「本当」を実現するためのツールなのです。

本当のスカウティングを提供するためには、このなくてはならない重要なツールの意味を十分に理解して、そしてそれを活用できなくてはなりません。これらを活用してスカウト達を導くこと、それが指導者の使命なのです。

WB研修所スカウトコースは、この点に重きを置いて、それらを実体験することで理解することを目的としています。

繰り返しになりますが、書籍や資料を読んでもわかることがあります。また、体験することで初めてわかること、より理解を深められることがあります。このWB研修所スカウトは、後者により、ガッテンし、より理解を深めることを目指して開設されます。

WB研修所を修了していない指導者はもちろん、既に修了されている指導者のみなさんにも別な角度からスカウティングを深められる意味のある研修です。是非とも参加ください。

### ●WB研修所スカウトコース茨城第1期

期日 平成29年5月4日(木)

～7日(日)

場所 土浦市青少年の家及び土浦訓練野営場

## ◆ 指導者のつどい

テーマ スカウティングを元気にしようぜ!

### 『楽しもう! スカウトソング!』

2月5日(日) ひたちなか市大島コミュニティセンター

今年度の「指導者のつどい」の第4回は、日本連盟のエールマスターの村上智真先生と日本連盟の吉田俊仁常務理事(元茨城県連コミッショナー)をお招きして、スカウトソングのつどいを楽しみました。

大島コミュニティセンターには、県内各地から60人もの指導者が集まり、村上先生の鍛え上げられた喉から発するスカウトソングの数々に魅せられ、吉田先生のテストに悲鳴を上げ、興奮の中、つどいを終えることができました。

今回はボーイスカウトのソングが中心となりましたが、そのソングが生み出された由来や背景、歌に込められた思いや意味を知ることができ、それを知ることで、歌の歌い方やテンポが分かり、それによってその歌への愛着がどんどん湧いてきました。

参加指導者の熱意で、村上先生もノリノリになり、他のスカウトソング研修ではまず聞くことのできない「サンタルチア」の独唱までも披露いただけました。

先生もおっしゃっていましたが、スカウトの活動の場で歌う歌はスカウトソングに限っていません。歌声のある活動が行われる環境を作ることが大切なのです。その環境ができれば、スカウトソングを取り入れていきましょう。

つどいの終了後に、「また、スカウトソングのつどいをやりましょう」「また、先生をお招きして、今度はスカウト共々スカウトソングを楽しみたいです」「次はいつですか?」等参加者の皆さんが口々におっしゃっていました。

スカウトソングが日頃の活動から消えかかっている現状を憂い、そしてスカウトソングからスカウ

ト活動に再び熱い炎が燃えたぎるようにと願って行った指導者のつどいですが、大成功を収めたと思います。

最後に、閉会式で歌った連盟歌ですが、折しも隣で開催されていた理事会を終えて、つどいの会場に入られた理事長・副理事長・事務局長が「これまで聞いたことがない素晴らしい連盟歌だ」と絶賛するほど、心がこもった元気にあふれた連盟歌でした。

参加された指導者のみなさん、村上・吉田両先生から与えてもらった炎を、これからどんどん隊のスカウトに分け与えて、スカウトソングの伝統と素晴らしさを伝えて行って下さい。

また、村上先生をお招きしての指導者のつどいを企画していきます。次回には、今回参加できなかった指導者の皆さんも、是非とも参加され、スカウトソングの魅力にどっぷりと浸かっていただきたいと思います。



## ◆ 日本ジャンボレット高萩2017の参加申込が開始されました。

今年の8月4日～9日までの5泊6日、高萩市の「大和の森・高萩スカウトフィールド」で開催される日本ジャンボレット高萩2017の参加申込みが開始されました。

テーマは「Stick to it!(最後まで頑張れ!)」で、参加対象はビーバースカウトからローバースカウトまで全ての部門のスカウトです。

このような全部門を対象としたキャンプ大会は日本初であり、それが我が茨城で開催されるということはタイヘン嬉しいことです。何しろ第1

回はずっとその名が残りますし、参加したスカウト・指導者にとっては、「第1回に参加した」ということが一生の宝になるにちがいありません。

滝に至る道の両側には既には多数のキャンプサイトが作られ、まもなくアリーナ工事が着工されます。また、指導者研修ができる規模の管理棟も7月には完成します。昨年のキャンボリーのときから、どんどん開発が進んでいます。

ボーイスカウトは「隊」単位で、ベンチャースカウトは「活動チーム」での野営(炊事は薪

となります。ビーバースカウト、カブスカウトは、隊単位で日帰り参加が原則ですが、君田小学校・君田中学校(3月末で閉校)に宿泊することができます。夏季キャンプにもなりますね。あ、ビーバースカウトは保護者同伴が参加条件です、ご注意ください。

募集案内は2/21に県連事務局から各団にメール添付で送られます。**県連の受付メ切りは3/15厳守**となっています。皆さん、こぞでご参加ください!! 第1回ですよ!!